

ドイツの余暇観と子どもの夏休み

運天 樹里奈

はじめに

私は大学で副専攻としてドイツ語を学んできました。ドイツの社会に関する講義も受ける中、特に雇用制度が充実しているように感じたため、より詳しく知りたいと思うようになりました。中でも興味深い制度として、ドイツの雇用制度の一つである連邦休暇法(Bundesurlaubsgesetz)と呼ばれる制度があります。

連邦休暇法では、週6日の労働の場合であれば最低年間24日、週5日では最低年間20日の休暇を受けることができると規定されています。実際には一般的に年間25~30日の休暇が与えられています。日本の休暇制度と大きく違う点はこれらの休暇は労働者の個人的な都合を除いて、連続して付与されなければならないことです。

連邦休暇法のように長期休暇が取れるという背景から、ドイツでは旅行をするなど充実した余暇を過ごそうとする風土があるように感じます。実際に、私が大学やベルリンでの留学中に知り合った社会人を含む多くのドイツ人が、長期で海外旅行を楽しんでいたり、写真撮影や音楽バンドを組むなどの多彩な趣味に時間を費やしたりして休暇や休日を過ごしていました。

今回のアウグスブルクでの滞在では、私は4才の男の子、8才の女の子そして13歳の少年のいる家庭にホームステイをさせていただきました。このレポートでは、そこでの生活を通して見聞したドイツにおける余暇観と子どもの夏休みの過ごし方につい

て書いています。両親ともに日中は働くなか、まだ幼い子供たちはどのような休暇を過ごしているのかを調べていきました。

ホストマザーにインタビューしたところ、大きく三つのタイプの過ごし方があると話していました。一つはお金のかからない過ごし方、二つ目に少しの費用で過ごす方法、そして最後にお金をかけた過ごし方の三つです。やはり三人もの子どもがいるため、予算を考えた過ごし方が大切になってくるそうです。

この報告書においてもインタビューを基に三つに分けて、それぞれの過ごし方をまとめています。

1 お金のかからない過ごし方

ドイツにおける子どもの夏休みは約1カ月半あります。この長期休暇は3人の子どものいる家庭であると、費用を抑えた過ごし方が必要となってきます。実際に私が滞在した10日間のうち、子どもたちは各々の友だちと過ごすことが多く、それぞれの家を行き来して遊んでいました。家ではおもちゃを使った遊びや庭など外で追いかけっこをするなどして元気いっぱい楽しんでる様子でした。

日本ではまだ幼い子どもであっても親のスマートフォンなどのゲームやアプリを使って遊んでいる光景を私は最近よく見受けられます。一方、ホームステイ先の家庭では基本的に外での遊びや体を動かす姿がよく見

られました。庭にはトランポリンやプールがあり、広々とフリスビーなどの遊びができるスペースが確保されているからだと思います。

さらにホストマザーによると、外へ出て遊ばせることでさまざまな利点があるそうです。例えば、虫やリスなどの身近な生き物に出会うことで他の命に関心を持ってもらうきっかけとなります。また走り回ってこけるなどの怪我をすることで、痛みを知り次に同じ怪我をしないよう子ども自身が健康と安全に気を付けることができるようになります。何事にも身をもって経験と学習をし、心身を鍛えることに繋がるため非常に良いことだとホストマザーは話していました。



ホストファミリー宅の庭で遊ぶ子どもたち

友人と遊ぶほかにも、近隣に住む祖父母を訪ねて過ごす様子もしばしば見受けられました。一番下の4才の男の子においては、最近では一人で歩いて祖父母の家を訪ねることができるようになったと話していました。ここでも子どもの自立心を育む姿を伺うことができました。

予算をかけない過ごし方として他にも、自然豊かなアウクスブルクには大きな川や

湖があるため、水遊びが子どもたちに人気の遊びでした。友だちと共に家族ぐるみで川辺で遊ぶことも多々あるそうです。

2 少しの費用で過ごす

次に、少しの費用での過ごし方についてまとめていきます。第一に、滑り台のある大きなプールがアウクスブルクの子どもたちに人気のスポットでした。少しスリルのある滑り台に挑戦できるかどうか度胸試しをしたり、いかに早く滑るかを友だちと競い合ったりして楽しむそうです。

また興味深い取り組みとして、アウクスブルク市が子どもたちに向けて休暇プログラム (www.tschamp.de) を提供しているそうです。休暇プログラムの内容は様々で、例えば乗馬や登山、彫刻、写真などのアクティビティが用意されています。子どもたちの興味に応じて手ごろな値段で体験ができるということから人気を呼んでいるそうです。アクティビティに参加すると、新しい友人を作ることができることも魅力の一つだそうです。またプログラムに子どもを預けている間は親たちも自由に休暇を過ごすことができると話していました。

ホストファミリーの8才の女の子も夏休みに乗馬体験をしたそうです。初めは自分より大きな馬を怖がっていたそうですが、だんだんと慣れていき可愛いと思えるようになったと話してくれました。ここでも、自ら体験し学ぶという姿勢が自然と教育されていることが伺えました。

この休暇プログラムはアウクスブルク市が運営しているということから、地域の人のびととの関わりが持てるということも一つ魅力的だと感じました。郊外で行われるこ

ともありますが、市内の場合であると地元
にどんな活動があるのか、その活動に関わ
る人々を知ることは子どもたちにとっても
貴重な機会だと思います。

3 お金をかけて過ごす

親たちも長期の休暇が取れるドイツでは
やはり旅行をするのが人気だそうです。特
にドイツは地理的にヨーロッパの中心に位
置し、EU 加盟国であるため欧州国内外への
渡航がしやすいです。

実際に、私がアウクスブルクへ滞在する
1 週間ほど前、ホストファミリーは家族全
員でイギリスを 1 週間ほど旅行していたそ
うです。

ドイツ国内の旅行においても、ドイツ南
部にある遊園地 (LegoLand や Günzburg) や
ミュンヘンにある動物園と水族館も人気の
お出かけスポットだそうです。ドイツは高
速道路や鉄道などの交通の便も良いそうな
ので、週末の小旅行としても国内を旅する
ことができます。

私自身も今回の滞在中の週末に、ホスト
マザーとその父親と共にアウクスブルク郊
外を旅することができました。アウクスブ
ルクから車で二時間ほど走ったところにあ
るドイツ最高峰 (Zugspitze) を登山しまし
た。ホストマザーの父親は登山が趣味であ
り、アウクスブルク近郊の山々をよく登る
そうです。

ドイツ最高峰への登山は山頂付近までロ
ープウェイで登ることができるため、気軽
に行くことができました。そのためか、登
山者の多くには幼い子供を引き連れた家族
組が多かったです。またドイツ人家族が多
く見受けられ、やはりアウトドアが好まれ

ているのだと実感しました。

山頂付近からは崖を登っていくトレッキ
ングでしたので、足を踏み外さないように
怖さとの闘いでした。また狭い通り道を譲
り合って歩くので、他の登山者とのコミュ
ニケーションも大切になっていきます。

アクティビティは安全に楽しめるように
マナーとルールを守ることが大切になると
改めて学ぶことができました。



山頂の風景

おわりに

今回の調査を通じて、ドイツにおける余
暇観の根底には、休暇をいかに充実させて
過ごすかということがあるように思いまし
た。特に、子どもたちにはさまざまな体験
をさせるということを大事にしていると感じ
ることができました。どんなことでも体
験してみなければ、その楽しさも危なさも
知ることはできません。知ることで次の
経験への学習にも繋がります。

また親だけではなく祖父母や隣人、自治
体にまで及んで、子どもたちの余暇を充実
させることに非常に協力的であることも重
要なことだと知りました。たとえ親が休み
を取ることができなかったとしても、祖父
母あるいは隣人、そして自治体が子どもた

ちの面倒を見ようという輪がドイツにはあるように感じました。子どもたちと一緒に育てようという環境があるからこそ、余暇をより充実した時間にしようという取り組みが積極的に行われているのだと思います。また、この余暇を大事にしようという意識がドイツ全体に自然とあるために、休暇制度も整っているのではないかと思います。

日本においても昨今ではワークライフバランスを見直す取り組みが積極的に行われています。働きながら、一人一人が豊かな時間を持てることが重視されてきています。私自身も、もうすぐ社会人の仲間入りをするので、人として成長するようプライベートの時間にも気を配った生活ができるようにしたいと考えています。

今回のアウクスブルク滞在で学び得た知識と経験を今後の生活に活かそうと思います。ドイツにおける余暇観や休暇中の活動を参考に、より豊かな暮らしを支える制度や意識が浸透していく社会づくりに貢献していきたいです。